

2020 年度実施概要

学校名

秋田県男鹿市立北陽小学校

採択活動名

ふるさととのふれあいを深め、ふるさとの自然や文化を学ぶ

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. ふるさとの大地で育てよう サケを育てる	4・5	総合
2. 身近な海の環境について学ぼう	4・5・6	総合
3. なまはげを通してふるさとの文化を学ぼう	全	生活・総合

取り組みの概要

- 1 ふるさとの大地で育てよう サケの稚魚放流と遡上の観察（4月，11月 4・5年生）
男鹿市農林水産課の協力のもと，地域の野村川でサケの稚魚放流事業に参加するとともに，担当職員から男鹿周辺でのサケの回遊状況や水産資源等に関する講話を聞く。また，サケが遡上する秋にはその現場を訪れ，稚魚放流の意義や命をつなごうとする自然の営み等についての考えを深める。
- 2 身近な海の環境について学ぶ（6～7月 4，5，6年生）
○外部講師を招いて今日的課題となっている海洋汚染の状況について学び，男鹿半島付近海域の海洋調査の事前学習とする。
○男鹿海洋高校と連携し，実習船に乗り，船川湾及び男鹿半島南側海域の漂着ゴミや海水の汚れ等について調査する。また担当職員及び海洋高校生から，マイクロプラスチック等の海洋汚染についての講話を聞き，ゴミ問題や環境保護の大切さについて学ぶ。
○秋田中央保健所の協力を得て，海洋環境の大切さや自分たちにできることについて学習会を行い，考えを深める。
○学習内容をまとめ，4，5，6年生合同の発表会を開く。
- 3 ふるさとの文化を学ぶ～「なまはげ」を生活科や総合的な学習の時間の学校テーマとし，各学年でテーマを決めて学習を進める。
○1，2年 「大好き なまはげ」（5～3月）
地域の方からなまはげに関するお話を聞いたり，縄ないを教わったりし，なまはげをより身近な存在として感じられるようにする。後半では「なまはげ柴灯（せど）まつり」で観光客に配布するための「なまはげマスコット」（なまはげを模した葉）づくりを行う。
○3年生 「なまはげ博士になろう」（6月～3月）
校外学習等でなまはげの伝承について調べ，パンフレットにまとめる。10月の学習発表会で学んだ成果を発表する。2月に真山神社を会場に開催される「なまはげ柴灯まつり」では，学んだ内容を収録した映像で発表するとともに，作成したパンフレット（1，2年生作成のなまはげマスコット入り）を観光客

向けに配布できるように届ける。学習のまとめとして、パンフレットを通して交流できた方々に礼状を書く。

○4年生 「なまはげ踊りに挑戦しよう」(9～10月)

真山なまはげ伝承会の方を講師に招き、なまはげ踊りについて指導を受ける。また、真山を含む男鹿三山を縦走する「お山かけ」の歴史について学んだり、赤神社五社堂を訪問して宮司の方から改めてなまはげ伝承の講話を聞いたりする。

○5年生 「なまはげ太鼓に挑戦しよう」(7月～10月)

地域の太鼓奏者を講師に招き、なまはげ太鼓の演奏について指導を受ける。学習の成果を10月の学習発表会で披露する。

○6年生 「男鹿市の今とこれからを考える」(6～10月)

真山なまはげ伝承会会長を講師に招き、なまはげ行事の現状と課題について学ぶ。また、なまはげをキーワードに地域を活性化させる方策を考え、模造紙やレポート等にまとめ、発表し合う。

○全学年 「学習成果を発表しよう」(10月～11月)

各学年の学習の成果を校内学習発表会や学級会、地域の文化祭等で発表する。

活動中の写真



サケの稚魚放流体験



サケの遡上見学



男鹿海洋高校実習船で海洋調査



学習発表会 3・4年生の発表



学習発表会 5・6年生の発表



令和2年度版 なまはげパンフレットとマスコット



秋田中央保健所との環境学習



1・2年生なわない体験